

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 11 日現在

機関番号：31307

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22320125

研究課題名(和文) 仙台藩と仙台領地域社会の新研究

研究課題名(英文) The new studies of Sendai Han and Sendai region

研究代表者

平川 新 (Arata, Hirakawa)

宮城学院女子大学・学芸学部・その他

研究者番号：90142900

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、旧仙台藩領の個人宅など地域社会に残されている歴史資料の保全を実施すると共に、研究期間中に発生した東日本大震災に対しては、行政や市民と連携して被災した仙台藩関係の古文書資料を約6万点を救済することが出来た。

上記の保全活動や、仙台市史など1990年代以降の自治体史編さん事業などで新たに確認された史料を活用し、仙台藩主の動向、家臣団の編成、年貢制度の実態、生業の発展による地域間関係、災害史、幕末の政治史などについて、新たな史実の発掘と解釈を示すことが出来た。

研究成果の概要(英文)：In this research issue, we conducted a conservation of historical records that are left in the local community in the former Sendai Han territory, For the Great East Japan Earthquake that occurred during the study period, we rescued about 60,000 records damaged by the disaster by collaborating with local government, residents and volunteers came from other areas.

We analyzed new historical records found from that activities, the compilation projects of local government history in the former Sendai Han area, such as Sendai city since 1990s. we were able to show the new historical facts and interpretations of the history of Sendai han, such as political activities of lords, organization of the vassals, annual tribute system, relationship between the development and environment, disaster, political movement of the end of Edo period.

研究分野：日本近世史

キーワード：仙台藩・仙台領の歴史 生業史 社会史 藩政史 地域史料の保全と活用 地域連携

## 1. 研究開始当初の背景

かつて日本近世史分野では1960年代から80年代にかけて、藩を対象にしたいくつかの総合研究が行われて注目された(『藩制成立史の総合研究:米沢藩』1963年、『譜代藩政の展開と明治維新 - 下総佐倉藩』1963年、『佐賀藩の総合研究』1981年、など)。もちろん個別論文として藩を対象にした研究は多いが、近年再び、岡山藩、尾張藩、松代藩、熊本藩など、各地諸藩に関する総合型の研究が隆起してきた。

このうち岡山藩は池田家、松代藩は真田家、熊本藩は細川家といった大名家文書を中心に研究が進められており、尾張藩はメンバー各自の問題関心に即した研究体制をとっている。本研究では上記のように新発見された大量の史料群の特性を生かしつつ、藩政・藩制や村落・地域社会のありようを根本的に再検討することを基礎研究としつつ、上記例にあげた視点以外の問題群の発見にもつとめながら、多面的に仙台藩の政治・社会・経済・文化研究を促進する。それと併行して、他地域の藩研究とも関連づけながら仙台藩研究の意義を再確認し、近世史研究における仙台藩研究の存在感を高めていきたい。これによって本研究は、たんに仙台藩研究にとどまらず、日本近世史研究の進展にも大きく貢献することができる。

また本研究では、研究の大前提となる歴史資料の発見と保全も同時並行的に進め、研究の基礎条件をより効果的に拡大することに務める。たんに仙台「藩・領」を多面的に研究するという意味での「総合研究」ではなく、大規模な資料保全と歴史研究の促進を一体化した「総合研究」として画期的であり、それだけに大きな研究成果を期待することができる。

## 2. 研究の目的

かつて仙台藩は藩政史料も村落史料も極めて少ないといわれていたが、2003年7月に発生した宮城県北部連続地震後に取り組んだ歴史資料の保全活動の結果、現在までに約20万点に及ぶ新史料が発見された。このうちの6分の1程度(約3万点程度)が戦国期から明治初期までの史料であり、内容は大肝入、肝入、地主、商家などの地域史料のほか、仙台藩重臣や家中侍層など、実に多様かつ大量の新史料である。

従来の研究ではほとんど利用されてこなかったこれらの良質の史料群を活用して、仙台藩の政治・経済・文化と地域社会に関する研究を多面的に進め、仙台「藩・領」研究を新たな水準に到達させることが本研究の最大の目的である。

## 3. 研究の方法

本研究では、収集済みの膨大な史料写真

(デジタルデータ)のデータベース化、未調査地域での史料調査と保全活動、これらの史料を活用した仙台藩総合研究の推進、を三つの柱として展開する。

については、ポストドクターや大学院生などの研究協力者を中心として日常的な作業を進め、については地元の教育委員会や郷土史団体等と連携しつつ展開する。これら二つの活動はすでに宮城歴史資料保全ネットワークによるノウハウの蓄積と実績がある。については仙台藩研究に関わる人材を糾合して定期的に研究会等を開催して研究の新段階を達成する。また事業期間中に2度のシンポジウムを開催して研究成果を取りまとめると共に、研究成果の社会的普及にも努める。

## 4. 研究成果

### (1) かつての仙台藩領における新史料の保全

かつての仙台藩領だった宮城県および岩手県南部において、従来未整理・未確認だった古文書資料を多数確認し、デジタル記録を収集することが出来た。全体では45件、約30万コマに及んでいる。

内容については、従来の調査で特に確認がされていなかった奉行(他藩の家老に相当およびその家臣団、仙台藩の広域地域行政を担当した大肝入文書、三陸沿岸の海村、宗教者に関する文書である。これらの文書については専用の収納容器へ保管すると共に、データを所蔵者や関係自治体に提供している。

### (2) 東日本大震災で被災した地域の歴史資料の救済・保全

研究期間中の2011年3月11日に発生した東日本大震災では、研究フィールドとしている宮城県および岩手県南部が津波などにより甚大な被害を受けた。この状況に対し、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークや被災各地の自治体、地域内外のボランティアと連携して応急処置を進めている。2014年までに114件、約6万点の古文書を救済し、応急処置を進める事ができた。

### (3) 仙台藩政に関する研究

#### 1 藩政史の研究

藩主自身の動向や、藩政をめぐる議論を中心に明らかにした。18世紀前半においては、藩主主導による儒学の導入と「明君」による藩内秩序の再編をめぐる家臣団との対立が発生したことを、同時期の政治と学問をめぐる政治状況から明らかにした。学問については、18世紀中期以降の経済化や交流の活発化などいわゆる民間社会の発展に対応し、経済に優先する「教」の論理を通じた地域秩序の再編について、学問的背景を有した実務官僚層の間で構想されていたことを明らかに

した。また天保飢饉期の藩主は、飢饉救済策に対する領民からの支持を背景に政治改革を実践しようとしたが、異なる領内世論を背景とした重臣層の反対と、災害対応の必要により挫折する。この政治過程を通じて、19世紀の仙台藩における世論政治の展開について明らかにした。

あわせて、仙台藩および支藩である一関藩における正室の役割と奥女中の任務について検討を加えた。「奥」と呼ばれる私的な空間において、そこでの交流関係が藩官僚制において情報収集など、奥としての固有の役割を果たしていたことを明らかにした。

地方知行制をとる仙台藩の給人支配の研究について明らかにした。仙台北下にある屋敷地については、従来存在が知られていなかった「留守居」の存在を検出し、その活動を通じて屋敷地の管理実態について明らかにした。

また、初代藩主の伊達政宗が派遣した慶長遣欧使節について、使節となった支倉常長の家臣団としての地位や、派遣の目的について、メキシコ経由での南蛮貿易の開拓や、慶長地震からの復興という観点を提示した。

## 2 仙台領地域社会の研究

藩政と地域を結ぶ論点として、身分秩序に関わる問題を、仙台北下町をフィールドに明らかにした。家臣団や町人層が剃髪禁止を自発的に実施することで、藩主家との関係に基づき自らの社会的立場を再確認し、それを公判にて維持するという機能を果たしていることを明らかにした。

仙台北下町の研究として、2010年7月に解体された通称「検断屋敷」(仙台市青葉区通町)の解体に際して確認された古文書史料の保全から、江戸時代の同地区大都市の周縁部分「場末」として物流や人的交流の核としての機能を明らかにした。特に、屋敷主の菊田家が飢饉時の救済活動等を通じて社会活動を活発化したことから、都市民の社会的成長をもたらす可能性を秘めた地域としての機能を持っていたことを解明した。

従来研究成果の薄かった村落に関する研究として、年貢徴収の実態を明らかにした。特に各年における実際の年貢率の設定について、村側が主導権を握っていたことを明らかにし、従来の収奪的な村落行政のイメージを一新した。

生業史については、江戸時代初期の藩領各地の海岸林の形成について、新田開発の進展による山林荒廃に対応して17世紀半ばから造林が開始されたこと、海岸林を維持するための地域住民の営為の実態が明らかになった。また、北上川流域を対象に、18世紀後半以降における山林利用と荒廃による土砂流入が、治水や沿岸漁業に悪影響を及ぼしていることを明らかにした。サケなどの資源保護や植林政策の進展により、流域をつなぐ地域社会が形成されたことを明らかにした。

災害史の研究としては、天明飢饉の経験を踏まえた地域社会での貯穀政策をめくり、村落リーダー層が自らの社会的役割を自覚して私財の提供や政策調整を行う一方、地域住民に理念を共有することが難しく、不正利用などにより天保飢饉時の被害を拡大したことを明らかにした。また、村落においては飢饉時に食料の現物確保と貨幣による購入を使い分け、危機を乗り切っていたことを解明した。

以上の成果については、論文集や単著などとして公表した。

## 5 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

平川新「東日本大震災と歴史の見方」、『歴史学研究』、査読無、884号、2011年、2-7頁

菊池慶子、仙台藩領における黒松海岸林の成立、東北学院大学経済学論集、査読無、177号、2012年、127-138頁

斎藤善之、仙台藩御穀船の運行統制と管理東北地域における領主制流通機構の変容、査読無、斎藤善之・菊池勇夫編『講座東北の歴史』4、2012年、71-106頁

菊池勇夫、救荒食と山野利用 仙台藩の場合、斎藤善之・菊池勇夫編『講座東北の歴史』4、2012年、71-106頁

平川新、地域の史料と向きあう - フィールドワークと郷土を愛すること - 歴史学研究、査読無、2014年、180-189頁

佐藤大介、歴史資料保全と「ふるさとの歴史」叙述 - 宮城での経験から - 、歴史学研究、査読無、2014年、189-198頁

佐藤大介、災害対策をめぐる「協働」と「公共」 - 天明飢饉後の仙台藩領における備荒貯蓄対策から、人民の歴史学、査読無、2014年、1-14頁

[学会発表](計 4 件)

平川新、東北関東大震災と歴史資料の救出、史料保存問題シンポジウム、2011年8月6日、学習院大学

平川新、歴史資料保全のための国家的課題 - 古文書を千年後まで残すために - 、人間文化研究機構第6回人間文化研究情報資源共有化研究会、2011年12月16日、人間文化研究機構立川事務所

平川新、地域の史料と向きあう - フィールド

ドワークと郷土を愛すること - 歴史学研究会 2014 年度大会特設部会、2014 年 5 月 26 日、駒澤大学駒沢キャンパス

佐藤大介、歴史資料保全と「ふるさとの歴史」叙述 - 宮城での経験から -、歴史学研究会 2014 年度大会特設部会、2014 年 5 月 26 日、駒澤大学駒沢キャンパス

〔図書〕(計 10 件)

平川新編、東北大学東北アジア研究センター叢書、歴史遺産を未来へ、2011 年、99 頁

平川新編、東北大学東北アジア研究センター、よみがえる町の記憶 - 通町・堤町・北山界隈の歴史、2012 年、190 頁

平川新編『江戸時代の政治と地域社会 第一巻 藩政と幕末政局』清文堂出版 2015 年 262 頁

平川新編『江戸時代の政治と地域社会 第二巻 地域社会と文化』清文堂出版 2015 年 265 頁

斎藤善之『仙台城下への肴の道』大崎八幡宮 2014 年 70 頁

中川 学『仙台藩の武士と儀礼：年中行事を中心として』大崎八幡宮 2014 年 70 頁

井上拓巳『荒浜湊のにぎわい』蕃山房 2014 年 74 頁

蝦名裕一『慶長奥州地震津波と復興』蕃山房 2014 年 69 頁

高橋陽一『湯けむり復興計画』蕃山房 2014 年 72 頁

菅野正道『イグネのある村へ』蕃山房 2014 年 86 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平川 新 (HIRAKAWA Arata )

宮城学院女子大学・学長

研究者番号：90142900

(2) 研究分担者

佐藤 大介 (SATO, Daisuke )

東北大学・災害科学国際研究所・准教授

研究者番号：50374872

(3) 連携研究者

菊池 勇夫 (KIKUCHI Isao )

宮城学院女子大学・学芸学部・教授

研究者番号：20186191

モリス ジョン (MORRIS, John Francis)

宮城学院女子大学・学芸学部・教授

研究者番号：30220057

斎藤 善之 (SAITO, Yoshiyuki )

東北学院大学・経営学部・教授

研究者番号：00196023

菊池 慶子 (KIKUCHI, Keiko )

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：00258782

中川 学 (NAKAGAWA, Manabu )

東北大学・高等教育開発推進センター・講師

師

研究者番号：60250651

千葉 正樹 (CHIBA, Masaki )

尚絅学院大学・総合人間学部・准教授

研究者番号：30312630

高橋 美貴 (TAKAHASHI, Yoshitaka )

東京農工大学・共生科学技術研究科(研究

院)・准教授

研究者番号：90282970

(4) 研究協力者

菅野正道 (KANNO, Masamichi)

仙台市博物館主査

畑井洋樹 (HATAI, Hiroki)  
仙台市歴史民俗資料館学芸員  
籠橋俊光 (KAGOHASHI, Toshimitsu)  
東北大学歴史博物館研究員  
水野沙織 (MIZUNO, Saori)  
仙台市博物館学芸員  
坂田美咲 (SAKATA, Misaki)  
仙台市博物館学芸員  
栗原伸一郎 (KURIHARA, Shinichiro)  
宮城県公文書館  
高橋陽一 (TAKAHASHI, Yoichi)  
東北大学・東北アジア研究センター・助

教